

令和7年度

音 楽

(解答はすべて解答用紙に記入すること)

この試験問題は持ち帰ることができます。  
なお、本問題で利用した著作物は、著作権法第36条により、  
試験の目的上必要と認められる限度において複製したものです。  
同目的以外の利用はできません。

(長野県教育委員会)

受験 番号						氏 名			
----------	--	--	--	--	--	--------	--	--	--

【注意1：声を出して歌ったり，音をたてて拍子を取ったりしないこと】

【注意2：問1及び問2は，放送を聴いて答えること】

【問1】 放送を聴きながら答えなさい。

- (1) リズムの聴き取りです。演奏は3回繰り返します。聴き取ったリズムを楽譜に書きなさい。
- (2) 旋律の聴き取りです。演奏は3回繰り返します。聴き取った旋律を楽譜に書きなさい。
- (3) 2声の旋律の聴き取りです。演奏は3回繰り返します。聴き取った旋律を楽譜に書きなさい。

【問2】 放送を聴きながら答えなさい。

- (1) Aの曲を聴いて答えなさい。
  - ① この曲の曲名を書きなさい。
  - ② 次の文は，この曲について説明したものである。文中の **a** ~ **c** に当てはまる適切な語句を語群ア〜クから選び，記号を書きなさい。

この曲は **a** の民謡であり，初期の **b** スタイルであるディクシーランド **b** の代表曲として世界的に知られています。この演奏の音楽的な特徴の一つに，ホルネット（またはトランペット），クラリネット，トロンボーンの3管が自由に絡み合う，集団での **c** 演奏が挙げられます。

語群： ア コロンビア      イ アメリカ      ウ キューバ      エ ジャズ      オ マンボ  
          カ ルンバ              キ 即興              ク 交互

- (2) Bの曲を聴いて答えなさい。
  - ① この曲が用いられている歌舞伎の演目名を書きなさい。
  - ② 次の文は，この歌舞伎の演目についての説明である。文中の **a** ~ **e** に当てはまる適切な語句を書きなさい。

歌舞伎には，伴奏音楽として「義太夫節（竹本）」「常磐津節」「清元節」などの三味線音楽があり，この演目では **a** が用いられます。多くの場合，唄方と三味線方の合奏に **b** 方（小鼓，大鼓，太鼓，笛）が加わります。舞踊では，武蔵坊弁慶役が，大盃を受けた返礼に **c** の舞という勇壮な舞を舞う場面が見所の一つです。演技では，役者のセリフによる表現だけでなく，力感が高まった最高の地点で動きを止めて力をこめ，両目をグッとよせてにらむ **d** や，武蔵坊弁慶役が花道から退場する場面で，左右の片足で三歩ずつ飛ぶように歩く，飛び **e** など，歌舞伎独特の特徴が見られます。

- (3) Cの曲を聴いて答えなさい。
  - ① この曲の曲名と作曲者名を書きなさい。
  - ② この曲は，全部で春・夏・秋・冬の4曲からなり，それぞれの季節の情景を表す14行からなる詩が添えられている。この詩を何と書きなさい。
  - ③ この曲の第1楽章は総奏（トゥッツィ）部分と独奏が交互に示され，総奏部分にはほぼ同じ旋律が現れる。このような形式を何と書きなさい。

- (4) Dの曲を聴いて答えなさい。
  - ① この曲の曲名，作詞者名，作曲者名を書きなさい。
  - ② この曲は，発行当初は無伴奏であったが，大正，昭和期における音楽家で，「からたちの花」や「この道」を作曲した人物によって伴奏譜が付けられた。その人物名を書きなさい。
  - ③ Dの曲の作曲者による作品を，次のア〜オから全て選び，記号を書きなさい。  
 [ ア 待ちぼうけ      イ 赤とんぼ      ウ 箱根八里      エ 早春賦      オ 憾 ]

- (5) Eの曲を聴いて答えなさい。
  - ① この曲の曲名，作詞者名，作曲者名を書きなさい。
  - ② この曲の説明について，適切なものをア〜ウから全て選び，記号を書きなさい。  
 [ ア この曲は，語り手を含めて4人の声を1人の歌い手が歌い分けるように書かれている。  
 イ この曲の前奏の高音部譜表は，全て三連符で書かれている。  
 ウ 「子」の歌唱部分（Mein Va-ter, mein Va-ter）は，曲が進行するごとに全音ずつ高くなっていく。 ]

- (6) Fの曲を聴いて答えなさい。
  - ① この曲の作曲者名を書きなさい。
  - ② この曲の作曲者と出身国が異なる作曲者を次のア〜エから1つ選び，書きなさい。  
 [ ア ハチャトゥリヤン      イ スクリャーピン      ウ ドヴォルジャーク      エ プロコフィエフ ]
  - ③ この曲の第4楽章冒頭で，D音とA音を演奏している打楽器名を書きなさい。

- (7) C〜Fの曲について，作曲された年が古い順に左から並べ，記号を書きなさい。

【問3】 次の問いに答えなさい。

(1) 中学校第2学年「和楽器の音色を味わおう」の題材で、Aさんは篠笛に興味をもち、複数の文献から調べたことを以下のようにまとめた。

【Aさんの調べたこと】

- ・篠笛は、日本に伝統的に伝わる **a** で、多くの篠笛は **b** を材料に作られている。篠笛は日本各地で **c** などの民俗芸能の演奏のために使われている。
- ・多くの篠笛の指孔は全部で7つあり、左手で **d** つ、右手で **e** つの指孔をおさえる。
- ・最も音が低いものから **f** 調子と呼ばれ、調子が上がるにつれて音が **g** になっていく。
- ・演奏をする時には、唇を左右に少し引き、上下を軽く合わせ、歌口のへりに息を当てて音を出す。その時には一般的にタンギングを **h**。また、同じ音を連続して出す際には、**i** という奏法を使う。

① 【Aさんの調べたこと】の **a** ~ **i** に当てはまる語句または数字を以下の【語群】ア〜ツから選び、記号を書きなさい。

【語群】															
ア	横笛	イ	縦笛	ウ	金属	エ	竹	オ	雅楽	カ	祭囃子	キ	2	ク	3
ケ	4	コ	5	サ	平	シ	一本	ス	低く	セ	高く	ソ	する	タ	しない
チ	舌打ち	ツ	指打ち												

② 篠笛など和楽器を学ぶ時に、楽譜を使わずに旋律や奏法を覚えたり伝えたりするために用いられる、楽器の旋律やリズムを口ずさむことを何とよいか書きなさい。

(2) 篠笛を学習したAさんは、身近な管楽器であるリコーダーに興味をもち、複数の文献から調べたことを以下のようにまとめた。

【Aさんの調べたこと】

- ・リコーダーはヨーロッパ各地で古くから演奏され、aルネサンスからバロックの頃に盛んに演奏されていた。
- ・音の高さによって、b様々な大きさのリコーダーがある。
- ・18世紀に入ると、リコーダーの代わりに **c** が演奏されることが増え、リコーダーは演奏されることが減った。
- ・現在のようなジョイント（継ぎ目）のある形に改良されると、dチューニングができるようになり、20世紀になると演奏されることが増えた。
- ・eタンギングをすることで、音のつなぎ方や切り方などを工夫し、旋律に様々な表情をつけることができる。

① 下線部 a について、このころに活躍した作曲家ではない人物を次の語群ア〜オから2人選び、記号を書きなさい。

語群：ア	パレストリーナ	イ	ブラームス	ウ	カッチーニ	エ	メンデルスゾーン
オ	モンテヴェルディ						

② 下線部 b について、テナーリコーダーの音域として適切なものを次のア〜オから選び、記号を書きなさい。

ア	イ	ウ	エ	オ

③ **c** に当てはまる管楽器の名称をカタカナで書きなさい。

④ 下線部 d について、音高を低く調整したい時に、ジョイント（継ぎ目）の間隔をどのようにするか書きなさい。

⑤ 下線部 e について、タンギングとは何をすることか、「舌」という言葉を用いて書きなさい。

⑥ 下線部 e について、次のA〜Cの奏法の譜例をア〜ウから選び、記号を書きなさい。

A：レガート奏法    B：スタッカート奏法    C：ノンレガート奏法

ア	イ	ウ
tu tu tu	tu tu tu	tu

⑦ 下線部 e について、⑥のように音と音のつなぎ方や切り方などを工夫し、旋律に様々な表情をつけることを何とよいか、カタカナで書きなさい。

⑧ リコーダーで高音を演奏する際などに用いる、裏孔にすき間をつくる運指を何とよいか、カタカナで書きなさい。

- ⑨ 次の楽譜は、ソプラノリコーダー (inC) 用の楽譜である。この楽譜を、クラリネット (inE♭) でソプラノリコーダーとユニゾンで演奏できるように書き換えなさい。その際、正しい調号を記入すること。

〔問4〕 次の問いに答えなさい。

- (1) 次の文章は、「中学校学習指導要領」(平成29年3月)第2章 第5節 音楽 の一部である。本文に即して、 ~  に当てはまる語句を書きなさい。

第1 目標 (略)

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕(略)

〔第2学年及び第3学年〕

1 目標 (略)

2 内容

A 表現

(1) (略)

(2) (略)

(3) 創作の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、 のある創作表現を  すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について、表したいイメージと関わらせて理解すること。

(ア) 音階や言葉などの特徴及び音のつながり方の特徴

(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの  の特徴

ウ  を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や  に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

B 鑑賞

(1) (略)

〔共通事項〕

(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す  や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。

イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと  理解すること。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) (略)

(2) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の(1)の指導については、ア及びイの各事項を適切に  させて指導すること。

(3)~(6) (略)

2 第2の内容の取扱いについては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 各学年の「A表現」及び「B鑑賞」の指導に当たっては、次のとおり取り扱うこと。

ア (略)

イ 音楽によって喚起された自己のイメージや感情、音楽表現に対する 、音楽に対する評価などを伝え合い共感するなど、音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫すること。

ウ 知覚したことと感受したこととの関わりを基に音楽の特徴を捉えたり、思考、判断の過程や結果を表したり、それらについて他者と共有、共感したりする際には、適宜、 活動も取り入れるようにすること。

エ 生徒が様々な感覚を関連付けて音楽への理解を深めたり、 に学習に取り組んだりすることができるようにするため、コンピュータや教育機器を効果的に活用できるよう指導を工夫すること。

オ (略)

カ (略)

(2)~(10) (略)